



平成18年12月発行

北海道がんセンターたより

独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3-54
TEL 011-811-9111
□ホームページ <http://www.sap-cc.org>

編集発行人:山下 幸紀



北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康で幸福な生活のため、最新の知識と医療技術をもとに、良質で信頼ある医療の提供に努め、特に「がん克服」に寄与することを目指します。このため、

- 常に、医療の質と技術の向上を目指します。
- 研究、教育研修を推進し、医療・医学の発展に寄与します。
- 患者さまの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 自主自律、創意工夫の精神で病院運営に当たります。

眼科紹介 糖尿病網膜症について



眼科 山本 哲平

北海道がんセンターの眼科は、白内障・緑内障・糖尿病網膜症・アレルギー性結膜炎など一般的な眼科疾患の診断・治療を主に行っています。その中でも、糖尿病網膜症は日本で毎年約3000人以上が失明し、緑内障とともに失明原因の上位を占めていますのでご紹介します。

糖尿病網膜症は、糖尿病があってはじめて起こる網膜の病気です。網膜とは目の奥にある薄い膜でカメラのフィルムにあたります。多くの血管が分布していますが、血糖が高い状態が長く続くと、網膜の血管は損傷を受けてつまったりして、網膜が酸欠状態に陥ります。その結果として新しい血管（新生血管）を生やして酸素不足を補おうとします。新生血管はもろいために容易に出血をおこし、眼底出血や硝子体出血などの症状を示す網膜症となります。

主な治療法として、網膜光凝固術があります。網膜の虚血部分へレーザー光を照射し、熱で凝固してしまう手術です。これにより虚血部分から新

生血管が伸びてくるのを事前に防ぐことができます。また、最近糖尿病網膜症の新たな治療としてアバスタチンという薬がでてきました。これはもともと抗がん剤としてアメリカなどで使用されている薬で血管新生を阻害する力があります。この薬を糖尿病網膜症の方の眼内に投与することにより、新生血管を減少させ、網膜症を改善させることが分かりました。また、この薬は眼科領域では黄斑変性症や新生血管緑内障にも効果があります。残念ながらアバスタチンはまだ日本では認可されていない薬ですが、個人輸入などにより使われていることもあるようです。日本でも早くアバスタチンが承認されるとよいですね。

糖尿病網膜症は、糖尿病になってから数年から10年以上経過して発症するといわれていますが、かなり進行するまで自覚症状がない場合もあり、まだ見えるから大丈夫という自己判断は危険です。糖尿病の人は目の症状がなくても定期的に眼科を受診し、眼底検査を受けるようにしましょう。

CONTENTS

眼科紹介 糖尿病網膜症について.....	眼科 山本 哲平.....	1
院内看護研修について.....	看護部長 小川ひろみ.....	2
私達半年過ぎました.....		2, 3
デザートバイキングの導入を試みて.....	副看護部長 武部 幸恵.....	4

院内看護研修について



看護部長 小川ひろみ

独立行政法人国立病院機構は北は北海道から南は沖縄まで、146施設の病院で構成しており、その中のどの施設に就職しても、看護実践能力を段階的に習得できるようにと計画された「看護職員能力開発プログラム」に則って、看護職員教育が行われています。

当院では、新人看護師採用後の1年間には、採用時研修、1ヶ月目研修、3ヶ月目研修、6ヶ月目研修、12ヶ月目研修と5回の研修が計画されており、職場への早期適応と看護実践者としての基本的な能力を習得できるよう看護師長、副看護師長、教育委員、プリセプターをはじめとして、スタッフ全員が指導に当たっています。

今年度の新人看護師も採用後、8ヶ月を過ぎ、

日に日に頼もしい一人前の看護師になってきました。教育に当たっている先輩達も、四苦八苦しながらも共に育っていく姿は、嬉しい限りです。

看護部では、新人教育の他に、看護部教育委員会、がん看護委員会、看護研究委員会等において、様々な研修計画がされています。また、病院全体の職員を対象に、医療安全管理室、感染対策室、緩和ケアチーム、NST等が企画した研修会も開催されており、看護への期待に応えるために、多くの看護師が積極的に参加し、日々研鑽を積んでいます。

では、今年度の新人の紹介をしますので、よろしくをお願いします。

私たち半年過ぎました。

質問内容：Q1. 働いてうれしかった事 Q2. 今後の抱負

2A 西本麻里子



1. 「あんた最初なんておどおどしてるしすぐ辞めちゃうんじゃないかと思ってたけど、なかなか働いてもさまになってるんでしょ」と言われた時。プリセプターの方初め、スタッフの皆さんが、解らない事やどうしたら良いのか困っている時に、声をかけてくださって、とてもやさしく教えて頂いた時。

2. がん看護についてもっと学び、病棟の事や業務をきちんと把握できるようになって、先輩たちにして頂いたように後輩に伝えていけるように頑張りたい。自分が身に付けた知識を患者さまが安心して治療を受けられるように生かしていけるようにしたい。

5B 草間さおり



1. 患者さまに名前を覚えて頂き、名前と呼ばれた時、患者さまとの会話が弾んだとき、「ありがとう」と言われた時がとても嬉しい気持ちになります。

2. 病棟の一員として動けるように、また、患者さまからの信頼を得られるように、知識、技術、共に勉強していきたいと思います。

2 B 段坂 聖子



1. 患者さまの笑顔やありがとうと言う一言などから日々喜びを感じています。また、初めて受け持たせて頂いた患者さまが退院される時「いつも来てくれてありがとう、これからも頑張ってるね」と言われた時は患者さまとより良い関係を築くことができたと感じ、とてもうれしかったです。

2. 1日1日の関わりを大切に、患者さまや先輩方を初めスタッフの方々からの学びを吸収し、より患者さまに寄り添った看護が出来るよう努力していきます。また、看護師としてだけではなく、人間性も磨けるよう努力しますのでこれからもよろしくお願ひします。

4 A 大谷恵理香



1. 退院時や関わった次の日に「ありがとう、とても助かりました」と言われた時がとてもうれしかったです。もっともっと仕事を頑張っていこうと思いました。

2. 細かい気づきや配慮のできる看護師になれる様に先輩方を見習い、頑張つて成長していきたいです。

4 B 石川亜希子



1. まだ働いて間もない私の名前を覚えてくれた事や、「久しぶりだね」など患者さまから声をかけてくれた事がうれしかったです。また、まだ未熟な部分が沢山ある私に「ありがとう」と言っていたける事があり、それが嬉しく今後も頑張ろうと思います。

2. これからも患者さまにありがとうと言っていたけるように、早く一人前になれるように頑張ります。

4 B 山本 佳奈



1. 患者さまとお話をしている「ありがとう」「頑張ってるね」と言われて頑張ろうと言う気になります。私が思っていた以上に患者さまは看護師を見ていて励ましの言葉を下さいます。本当に、患者さまに助けられ、支えられていると思う毎日です。患者さまが思ってくれる事、不安な事、嬉しかった事を話して下さるのが嬉しいです。

2. 患者さまとコミュニケーションを取る中で患者さまの気持ちを理解し、少しでも苦痛を緩和でき、安心を感じてもらえるような看護師になりたいです。また、もっと知識をつけて治療や援助の必要性や根拠を今よりも更に深く考えていけるようになります。

5 A 原田 理奈



1. 4月に分からなかった事、出来なかった事が分かったり、出来るようになったこと。患者さまが色々話しをしてくれた時。

2. まだまだ出来ない、分からないことだらけですが、1つずつ確実に出来るようになっていきたいです。初心をずっと忘れずにしていきたいです。

5 B 鈴木麻紗美



1. 採血などの痛みを伴う処置の時に患者さまに「上手だね」と言われた時とても嬉しく感じます。また、入院における不安や疾患・治療についてなど相談して頂いた時には少しずつ信頼関係が築けてきたのではないかと感じています。

2. もうすぐ就職して1年が経ちますが、知識的にも技術的にもまだまだ不十分な点が多いので、日々学ぶ姿勢を忘れず、先輩や患者さまから多くの事を学ばせて頂き、患者さまの希望や状況に合わせた看護を実施していきたいと思っています。

6 A 吉田 七星



1. 最初の頃は不安などいっぱいあり、患者さまの笑顔に励まされる一方でしたが、今では「ありがとう」と言う言葉をかけられる事が増え、嬉しく思っています。

2. 今はまだ知識や技術など不足している点は沢山ありますが、積極的に学び、次に活かせるように1日を大切に頑張っていきたいと思っています。また、患者さまの笑顔が1回でも多く見ることが出来るような関わりをしていきたいです。

6 B 野際奈美江



1. 患者さまに「ありがとう」と言っていたけること、患者さまの笑顔が見られた時は、働いていて良かったなと思います。

2. まだまだ未熟な私ですが、スタッフや患者さまに支えられて頑張っています。これからも笑顔を決やさずに色々な事にチャレンジして成長していきたいと思っています。

6 B 伊藤愛依子



1. 自分が何かした時に患者さまから「ありがとう」と声をかけてもらった事です。大した事をした訳じゃないのにその一言がすごく嬉しいです。また、今まで出来なかった技術を行えるようになった時、知らなかった事を知る事ができた時も嬉しいです。

2. これまでは1日の業務をこなす事に精一杯になってしまいましたが、もっと沢山知識を身に付け患者さまにとってより良い看護を提供できるようになりたいです。

7 A 十和田早織



1. 自分で入浴できない患者さまの保清援助を行った時に「気持ちいい」「すっきりした」等の言葉を聞くと自分も少しは役に立っているのかなと思ひ嬉しくなります。大きな手術を終え、リハビリを頑張つて行い元気になり笑顔で退院していく患者さまを見るのは嬉しいです。初めて患者さまから「看護師さん」と呼ばれた時、とても嬉しかったです。

2. 今はまだ業務をこなす事に必死になってしまう事が多いですが、これからは患者さまと話を沢山して、不安や悩みを少しでも緩和できるように関わっていきたいです。患者さまの気持ちを理解し、信頼されるような看護師になりたいです。そのためにも知識と技術の向上のため、日々勉強していきたいと思っています。

デザートバイキングの導入を試みて

副看護師長 武部 幸恵

当院に入院されている患者さまの多くは治療の副作用によって味覚が変化し食欲が低下され、平均在院日数が長くなればなるほど変化が少なく季節を感じにくい環境の中で入院生活を送らなければなりません。そこで、デザートに着目し、数種類の中から自分の好みのもので食べてあげることができれば、単調な日常生活に変化をつけることができるのではないかと考えました。さらに病棟の患者さまは普段栄養士や調理師と関わる機会が少ないため、栄養士と調理師が患者さまと直接交流を図る良い機会となるのではないかと考え、栄養科と協力して定期的にデザートバイキングを計画しました。

季節感を取り入れたデザートを選んで食べる楽しさを持っていただく事を目的とし、5階フロアから始まり、今では徐々に各フロアに広がりつつあります。選べる楽しさや季節感を味わえ、患者さまからは好評とうれしいアンケート結果が！まだ導入したばかりで、色々と改善していかなければならない事や少ない予算での工夫など多々ありますが、患者さまの笑顔のために頑張っていきます。

※病状や手術・治療のため食事制限のある方は残念ながら実施できませんのでご了承をお願いします。



デザートバイキング

(※配布したパンフレットの一例)



選んだ一例



配っている様子